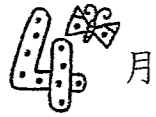


2020年(R2年)



No. 338

ひとはつゆ

(ホムア°-ヅアド) http://hitoha-fukushi.com (X-ルアド) honbu@hitoha-fukushi.com



社会福祉法人 ひとは福社会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

「見えない敵は怖い」

今年のトップニュースは間違いなく世界中を震撼させたコロナウイルスの蔓延ではないでしょうか。この慌てふためき方は、私の記憶にありません。何より怖いのは、見えない敵で風評が風評を呼び、お互いに疑心暗鬼になってしまうことです。冷静な対応を心がけなければなりません。個人的には手洗いが上手になったこと、マスクをかける習慣が身に付いたことでしょうか。

見えない敵といえは、差別や偏見という風評が私たちを苦しめます。以前、私の友人が「わしは障がい者を差別したことはない。じゃが、障がい者はわしの周りにはおらんて」と反論しました。障がいのある人たちがどこでどのような生活を強いられているか、思いやることはありません。自分の周りにいたいことを前提とした常識を倉り上げ、気付かぬうちに排除してはいないでしょうか。そして「かわいそう」とか「気の毒」という言葉で、その人の存在を表現してしまいがちです。まさに自らが「見えない風評」によって差別や偏見にカ担してしまっているのです。

ひとはは、その常識をくつがえし、障がいのあるといわれている人たちが自分らしく生きようとしている活動を支え、共に私たちの社会が「誰でもが安心して暮らせる社会づくり」を心がけていきたいと思います。

「わしはわし並みでえかうがしい」「しっかりせえよ。わしがういとるけん」。さららの仲間からの発信です。なんと優しい言葉でしょう。
(理事長 寺尾文尚)

4月号からの「ひとはつゆ」の題字は、向原小学校4年生の斎藤心さんが担当します。心さんは、歌(懐メロ)や運動、ニンテンドースイッチでゲームをするのが大好き! くらむぼん所属の笑顔の素敵なお女子です。

あたらしく入ったひとはの仲間たち ~スタッフ~

名前 船田 いずみ
所属 食事部
最近笑った話 うまぎ少なめでひまぶしを作った時のこと。娘にひまぶし風に作ったよと伝えると、このひまぶしは何?と返答が。娘とお腹をかかえて大笑いした。

名前 青山 直樹
所属 ひとは工房
最近笑った話 11月に羽化したニワトリが大きくなり、毎朝6時30分に鳴きます。起こしてくれて有難いようなうるさいよう。今日もオ、ワウ! ニワトリ達。

産直市店 改め
縄文あいす「ひとは館」バジパーク店 オープンします
2020年4月24日(金) グランドオープン。
道の駅「三矢の里あきたかた」内に出店します。
場所: 安芸高田市吉田町山手1971-1

3番のりば展 in ささき亭
就労センターあついでアート活動が始まって5年目に突入し、さららの仲間一人一人その人らしい表現で作品がたくさん生まれています。今回は16名の作品をささき亭で初めて展示、また制作しているプラバングローチ、アクセサリー、さき織り商品などを販売します。
場所: 寄り合い処 ささき亭 (向原町長田1143-2)
期間: 2020年4月4日(土) ~ 4月17日(金) 11:30~15:00
定休日... 日曜・月曜・祝日
お問い合わせ: 0826-46-2218



「子どもはお見通し」

年度のはざま、今年は春がずいぶん長く感じます。季節は春を承知で、クリスマスにまつわるエピソードを一つ。くらまぼんを利用している男の子のお母さんが、クリスマスプレゼントの用意を巡って子どもにサンタの正体を質問したところ、「サンタさんは〇歳の女で、△歳の男と結婚をして、今僕の手を握っている人だよ」と答えたそうです。彼は「サンタさんには、いつもは買ってもらえない高いものを頼むんだ」と、このクリスマスは意気込んだそうです。知らぬふりで子どもの観察はするといもの。(ほんわかしたお話でした。)

(くらまぼん 佐竹正亮)

「長靴」

ドライブで増長さんの実家へ行った時のこと。道中はどこへ行くんだらう?という表情で過ごしていましたが、実家の前に到着し「増長さん! 家に着きましたよ!」と声をかけると、目を見開き「降りろー!」と。スタッフと一緒に玄関に行き、扉に手をかけ「あけてえ」と言いますが、鍵はさしはやり開かず、切なそうな表情。しかし何やら庭先を物色...「うおあ!」という声とともに手には長靴が! ご家族のか、はたまた増長さん本人の物かは分かりませんが、思い出の1つであろう長靴を見つけた時の、増長さんの足の底からの笑顔は忘れられません。

(ひとは作業所 新川乃重)

「見守りと励ましに支えられて」

私は、少しの忙しさとソワソワするあわてんぼうで、少しの不安で緊張する心配性です。的場邸でも毎度の私ですが、そんな私を住居人の皆さんが、いつも大らかに見守り、励ましてくれます。その内の一人、賀張さんは、私が緊張しているときさくたくさん話をしてくださり、気分をほぐしてくれます。「今年のカーブはどうかね?」「新型コロナウイルスが流行っているね。」という何気ない会話が私の支えとなっています。

(グループホーム ひとは長屋 柴坂尚樹)

「竹森さん PART. 2」

竹森さんと私は、一つ違い。どちらかが年上かはひ・み・つ。なので、古いギャグで盛り上がり。私が「困った、困った」と言ったら、すかさず竹森さんが「こまどり姉妹」と合いの手を、「しまった、しまった」と言ったら「島倉千代子」とこれまたタイミング良く掛け合ってください。そして、二人で爆笑。「楽しい、素敵!」

あるクラブ活動の日に、土師ダムに出掛けてさくら亭で昼食を頂いた時のこと。竹森さんは、メニューをじっくり見て、牡蠣丼を注文。「たまには、自分にご褒美をしてもええよね。」と。毎日仕事に一生懸命な竹森さんを思うと「ご褒美、ええですね。」と笑顔で答えます。「ああ〜美味しかった。」笑顔の竹森さん、素敵。幸せな気持ちになります。

(就労センターあぶ 龍野由美子)

「かんぼつたれ」(?)

ひとは窓の河野大輔さんは、不定期で「かんぼつたれ」を発行しています。日常生活の中で思うことを本音で書くと聞いていましたが、発行以来、ほとんど当たり障りのない随想的な内容。理由を聞いてみると「人に厭な思いをさせたり、こんた奴だつたんだとおもわれたくない。」とのこと。「表題を変えたら?」と言うと、何やら考えています。後日、「『かんぼつたれ』に代わるどんな言葉があるかね?」の人からの問いに「そうじゃねえ、『かんぼつたれ』かね」と答えたそうです。「次号を楽しみにしているよ」の私がかけたプレッシャーに彼はどう答えるか、表題が変わるのか楽しみです。

(ひとは工房 高沖勇雄)

編集後記

大島駅から芝罘線に乗った時のこと。出発前のアナウンスが流れたいものの耳には入らず、電車で揺られながら... (と気が付く。これは快速!) 自宅の最寄駅に停車しない! 車中、慌てて何の手探を探すが、どとも一時間以上待つものばかり。やむを得ず一駅手前で降り、タクシーを利用することに。5分程度だから、と思えば、料金は大島駅まで(往復)まで乗った。ふ。あまりにもポー、として自分、とつたに情けなさを感じた自分であった。

(竹内良美)